

沖縄語 かわら版

沖縄語を話す会会報

第14号

2010年12月4日発行

会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 真正

電話 & F a x 044-988-8065



しーふーさー

絵 花田匠子「喜多見で沖縄語を話す会会員」

「おきなわ ご はな かい ちち たけーんあち びんちよーい しながわ あーさき
沖縄語を話す会」 月に二回集まてぬ勉強会、品川ぬ大崎をて

- ・ソウルうびん覚出じゃち-----仲門勇市
- ・ゆんたくふんたくぬたび旅-----和田晶子
- ・会報に出てきた語句の説明
- ・事務局から

ホームページ <http://www.wwq.jp/p/>

沖縄語教育支援文庫 <http://www.wwq.jp/q/>

今から二十八年前ぬ事やいびーん。

韓国一、ソウル市なかい IASPAC (アジア太平洋社会文化センター) ンで言う仕事する所ぬあいびーん。

んま一、世界からっ人ぬ達が揃て、働ちゆるしんみ成とーる所やいびーん。

んまんかい勤みとーたいにぬ御話やいびーん。

毎日あまじゆるバス乗て、ASPAC かい行じょーいびーたん。うぬバスぬ中をぬ事やいびーん。

ゆん暑さんあい、いばやーしーちえーそーるバスぬ

中やいびーたん。六ちびけーん成いる女 童ぬ、ち

えー、ふるましー事、まぎ声っし「オンマー。オンマー。」ンで言ち、あびとーえーさに。

うぬ「オンマー」ンで言う声聞ち、我んねー、どっど

珍しー事やっさーンで思て、正気取り戻さびたん。

く此ぬ「オンマー」や、間違ーや無ーらん沖繩ぬ「あ

んまー」ンで言ち、聞かりやびーたん。

な一、沖繩んかい居んねーっし、バスぬ中ぬっ人ぬ

達や、沖繩ん人一、あらんがやーンで思ゆるあたい、

沖繩ぬ事ぬ、一杯あながちさいびーたん。

く此ぬ「オンマー」ンで言うハングルぬちむえーや、

あとからわかたる事やいびーしが、「あんまー」ンで言う

ちむえーやいびーん。

わ我んねー、胴ぬ女ぬ親め面影ぬ事、覚出じゃちょー

いびーたん。

なま 今一、我達女ぬ親一、此ぬ世失みそーちやしが、

どくあながちさぬ、バスぬ中を、涙小落どちやる

事ん、覚出じゃちょーいびーん。

また、此りん後からわかたる事やいびーしが、ハン

グルど沖繩口一、似ちよーる所んあて、ハングル習

いにん役立ちやびたん。

く此ぬよーな事、覚出じゃしーね一、二十八年前ぬ

ソウルを、暮らちやる事ぬ、見一ゆんねーさびーん。



オンマー 絵 花田匠子

ゆんたくふんたくぬ旅

和田晶子 (我孫子市)

五月に沖繩かい行じ来やーびたん。

雨小ぬ降て、しー冷ーさる東京から飛行機乗て、那

覇かい行ちやびたん。

な一、那覇一、てーだふらふら照て、夏ぬばんじぬ如

どあいびーたる。空港ターミナルぬ出口をて、我

のーじか ぶだぶーあ いしはらすえこ んけ
ん名字書ちえーる札小上げて、石原末子さんが迎
て呉みしえーびーたん。
いしはらすえこ はじ あーちえー めーあなく
石原末子さのー、初みて御行逢する前女 やいびーし
が、此ぬ会報作 とーみしえーる國吉眞正さんぬ、
どーきゅーしー しょーがっこー わらび
同級生やみしえーびーん。小学校ぬ、童そーい
にからぬ、同級生やんでぬ事やいびーん。
めー わ く ふいほー じゅーにこー か
前に、我んが、此ぬ会報ぬ十二号なかい書ちえー
る「初みてぬ沖繩口」んで言う文、石原末子さんが
ゆーく、 うん にーから ぐびんうたび でん
読で呉みそーち、うんにーから御縁御賜みそーち、電
話さい、御手紙送たいっし、ふらゆる如成いびたん。
いしはらすえこ うちなー あし く ま
石原末子さのー、「沖繩かい遊びーが来ーわ。待ちか
んでーそーんどー。」んで言ちよーみしえーびーたん。
あんし、那覇空港をてー、我んねー、「和田晶子さ
ん」で、書ちえーる札小見ち、待ちかんでーそーみ
しえーてーさやー、んで言ち心地ぬ伝わてっ来、一杯
嬉さいびーたん。
はじ あーちえー んかし
初みてど御行逢そーいびーるむんぬ、かーま昔から
ふらとーたる如っし、空港ぬ出じ口をて、直ぐ何隔て
ん無ーんだんだんぬ御話さびたん。
いしはらすえこ あーちえーをが はじ
石原末子さぬんかい御行逢拝みーねー、「初みて
あーちえー わだ
御行逢さびーん。和田やいびーん。」で、うんぬきゆ
んち、飛行機ぬ中をて、幾回ん沖繩口さーに稽古
さびたしが、御行逢拝たる場所ねー、どく嬉さぬ肝ぶ
どみちっし、けー忘て、諸大和口風儀ぬ沖繩口成て無

ーやびらん。
く ちむ うちなーくち う
此りからー、肝ぶどみちしん、ちつど沖繩口っし御
はなし な ぐと うちなーくちえ びんちよー
話ぬ成いる如、沖繩口ー、なーふん勉強さんど
んあれー成らんで、強々く思やびたん。
なーふくーこー あど いしはらすえこ
那覇空港をて、ゆんたくっし後から、石原末子さ
んぬ車さーに、まじゅーんホテルかい行ちやびたん。
ホテルをて、あさばん囃で、あんし、ラウンジぬ窓か
ら見ーゆる青ってーんそーる海見じゃがちー、石原
すえこ やーにんじゅ うはなし
末子さんと、ゆんたくさびたん。家人衆ぬ御話さい、
しぐと うはなし また るくじゅーくにんめー うちなー
仕事ぬ御話から、又、六十五年ぬ沖繩をてぬ、
いくさ はなし うはなしをが
戦ぬ話まで、だんだんぬ御話拝まびたん。
うちなーくち なら ぐ
うりから、沖繩口にちーてん、ちゃっさん習ーち呉み
しえーびーたん。
いしはらすえこ しまじりくん とむい ゆー どくる
石原末子さのー、島尻郡ぬ富盛んで言る所なか
い暮らちよーみしえーびーん。
また
又、「とみもり(富盛)やあらん、どむい(富盛)ど
やる。」んで言ち、口尖らち声出じゃち、「どむい、
どむい」んち、幾回んまじゅーん稽古さびたん。
なー、あんしーかんしーっし、ゆんたくそーいねー、
さんじかんな ね
びーくる三時間成て無ーやびらん。うぬままゆんたく
ぶ、 うちなー ち ね
しー欲さたしが、沖繩かい来ゆーしん、ちーに無ーん
ぐと しえーふ うたき そ ぐ
事やくと、斎場御獄まで、添ーて行じ呉みしえーび
ーたん。
くるま なーか わったー
車ぬ中をてん、我達や、ゆんたくふんたくぬ、

あるうっささびたん。

あんし、うぬ石原末子さの、沖繩ぬ童ぬ歌、うり
から、ちょーぎんぬ「仲直いさんだー小」んで、歌
で呉みしえーびーたん。

此ぬよーなゝーりきさる時ん、「あね」んで言る間な
かい只今過りて無ーやびらん。

「あんしゝーりきさるふっちーやいびーたる。」又、

「あんし御行逢拜で嬉さいびーたる。」んで言る事、

沖繩口さーに、ゆちくに石原末子さぬんかい、うん

ぬきれーやーんで思やびたしが、「一杯にふーでーび

る。」やか上てー言ゆーさびらんたん。あんすくと、

なーふん勉強さねー成らんで思いがちー、「またや

ーたい。」んで言ち、石原末子さんぬ車ぬ見ーらん

か見ーらんかするまで、我んねー、手振り続きとーい

びーたん。

なー、沖繩ぬ海一、てーだぬ萎ーて、入り日ぬ何

どんでん言らん清らさいびーたん。

なーちゃ乗たる系満タクシーぬ、タクシー

持ちちゃーんかい、「昨日や、ゝーりき所一、何処まで

行じゃが。」んで、問らりやびたん。

我んねー、思ーじふらーじ、石原末子さんど稽古さ

る如っし、口尖らち、「『どむい(富盛)』ぬ同土ぬ斎

場御獄かい添ーて行じ取らさびたん。」で言ちやくと、

うぬタクシー持ちちゃーや、ハンドロー握ーまま、あつ

たに、くし向かて、「あい、姉さの、島ぬっ人どや
るい。『どむい』んで言しえー、島ぬっ人ぬど、あね
一言んどー。」んで言びたん。

我んねー、東京をて、沖繩口勉強そーんで言る事、

うぬきやびたくと、一杯嬉さっし「何んち沖繩口

勉強そーが。ちゃーし勉強そーが。幾回、時間、

人数。」んで一問とーいびーたん。

うぬタクシー持ちちゃーや、大崎ぬ勉強会かい行ち欲

さがあたら、色々問とーいびーたん。

あんやいびーらーんで思て、大崎ぬ勉強会ぬ事、沖

繩口さーに、まぎまぎーとPRしーわどやっさーんで

言んちそーいびーたしが、だーたい。「我んねー、・

・・・・・。」んで言ち、うぬ後一、諸大和口ど

な成いびーたる。

なー、又ん、沖繩口一、なーふん勉強さねー成ら

んで強々く思やびたん。

我んねー、「勉強会どやいびーしが、ゆんたくふん

たくぬゝーりきさる会やいびーん。」で言びたくと、

うぬタクシー持ちちゃーや、「『ゆんたくふんたく』ん知

っちょーさやー。」んで言ち、沖繩口ぬ事あながちさ

そーいびーたん。

石原末子さんから習たる「どむい」ぬ御蔭に、タ

クシーぬ中をて、一杯華ーちゃびたん。降りーる時

ねー、タクシー代や、四百三十円安みてーいびー

たん。

此ぬ旅^{くたび}ん、タクシー乗^ぬて、添^し一分小^{ぶん}い^ちーたんねーっ

し、嬉^{うっ}さそーいびーん。

あーりき所^{どくろあつ}歩^くちゆる、くん如^くーる大^{やまと}和^{ちゆ}ん人^にぬ、あん

すか沖^{うちな}縄^{ぐち}口^わん分^{むん}からん者^ぬどやくと、何^ぬがやら御^く無^{ぶり}礼

成^なてーちらんがや^しーんち、ちゃ^しー心配^わそーいびーん。

やいびーしが、かんし、い^あー御^{ちえ}行^{ちが}逢^く拜^とむる事^ぬぬあいび

ーくと、意^い地^じ出^しじ^んて、沖^{うちな}縄^{ぐち}口^さーに御^う話^はっし益^ましやた

んで思^うとーいびーん。

あんし、沖^{うちな}縄^{ぐち}口^くぬ声^{こゑ}出^まじ^たい、又^{また}声^{こゑ}上^あぎたいす

し、しかつ習^{なら}て御^う話^は成^ないる如^{ごと}、前^めやか、な^なーふん

うみはまて、勉^{びん}強^{ちよ}さね^なー成^ならんで思^うやびたん。

沖^{うちな}縄^{ぐち}口^さーに結^むたる御^く縁^{いん}御^う賜^たみそ^ち、御^く礼^り儀^じう

んぬきやびら。

又^{また}、あ^あーりきさる沖^{うちな}縄^{ぐち}ぬゆんたく^たふんたく^たぬ旅^{たび}をて

習^なたる、「どむい(富^{なま}盛^う)」や、今^なや^まてん^う覚^び出^んじ^んやち、

口^{くち}尖^がらち声^{こゑ}出^しじ^んやちよーいびーん。

会報に出てきた語句の説明

(沖縄語辞典、広辞苑による)

- ・しんみ：要。
- ・あまじゆん：揺らく。揺れる。
- ・あまじゆるバス：揺れるバス。
- ・ゆん暑^{あち}さん：嫌に暑い。
- ・いばやーしーちえー：窮屈なさま。狭苦しいさま。
- ・～びけーん：ばかり。
- ・ちえー：おや。おお。まあ。
- ・ふるましー事^{こと}：不思議なこと。

- ・あびゆん：叫ぶ。大声で呼ぶ。
- ・あびとーえーさに：叫んでいるではないか。
- ・どつと：はなはだ。とても。
- ・あたい：くらい。ほど。
- ・あながちさん：懐かしい。
- ・ちむえー：意味。わけ。
- ・どく：あんまり。
- ・～ねーすん：(・・する)ように。
- ・見^みーゆんねーさびーん：見えるようです。
- ・しー冷^びーさん：うすら寒い。
- ・て^てーだ^てあ^てら^てくら^て照^てて：日がかんかん照って。
- ・夏^なぬばんじ：夏の真っ最中。
- ・御^あ行^ち逢^ち拜^ちむん：お会いする。お目にかかる。
- ・前^め女^あ：淑女。御婦人。
- ・童^{わら}そーいに：子供のころ。
- ・うんにーから：そのおりに。その時に。
- ・御^う賜^たみしえーん：賜る。下さる。
- ・ふらゆん：つきあう。交際する。
- ・待^まちかんてー：待ちかねること。
- ・心^く地^ち：気持ち。気分。
- ・一^い杯^っ：たいそう。非常に。たいへん。
- ・か^かーま^か昔^し：遠い昔。
- ・何^ぬ隔^ふてん^ね無^んーん：何の隔てもない。
- ・だんだんぬ御^う話^は：大層なお話。
- ・うんぬきゆん：申し上げる。目上に言うことの敬語。
- ・沖^{うちな}縄^{ぐち}口^さーに：沖縄語で。
- ・肝^ちぶどみちすん：(希望などで)胸をときめかす。
- ・け^わー忘^しゆん：ちょっと忘れる。
- ・風^ふ儀^じ：流儀。なりふり。ようす。
- ・ちつと：強く。しっかりと。

- ・なーふん：もっと。
 - ・さんぞんあれー成らん：しなければならぬ。
 - ・ゆんたくすん：おしゃべりする。
 - ・まじゆん：一緒(に)、共(に)
 - ・あさばん：昼飯。
 - ・見じゃがちー：見ながら。
 - ・御話 拝むん：(目上の人のお話)を聴く。
 - ・ちゃっさん：いくらでも。
 - ・あんしーかんしー：ああしたりこうしたり。
 - ・いーくる：大よそ。大方。大体。
 - ・ちーに無ーん事：めったにないこと。
 - ・ちょーぎん：狂言。能狂言ではなく芝居一般。
 - ・あるうっさ：あるだけ。あるかぎり。
 - ・あーりきさん：面白い。楽しい。
 - ・過りゆん：時間が過ぎる。
 - ・ふいつちー：一日。また、一日中。
 - ・ゆちく：豊か。
 - ・～やか上てー：より以上は。
 - ・言ゆーさびらん：いうことが出来ません。
 - ・勉強 さねー成らんで思いがちー：勉強しなければならぬと思ひながら。
 - ・見ーらんか見ーらんかすん：かすかに見える。
 - ・てーだぬ萎ーゆん：日ざしが弱る。
 - ・何どんぞん言ららん：何とも言えない。
 - ・なーちゃ：翌日。
 - ・あーりき所：面白い所。また、観光地。
 - ・思ーじふらーじ：思わず。思ひがけず。
 - ・同士：友。友だち。
 - ・添ーゆん：連れる。
 - ・あつたに：にわかに。不意に。
 - ・くし：背中。うしろ。
 - ・あねー：そうは。
 - ・ちゃーし：どうして。
 - ・行ち欲さがあたら：行きたかったのか。
 - ・まぎまぎーと：大きく。
 - ・言んちそーいびーたしが：言おうとしていましたが。
 - ・だー(たい)：しまった。
 - ・ちゃー：いつも。
 - ・華ーちゆん：華やかになる。にぎわう。
 - ・添ー分：おまけ。
 - ・いーゆん：もらう。
 - ・いーたんねーつし：もらったようにして。
 - ・くん如ーる：このような。
 - ・あんすか：それほど。
 - ・何がやら：どうしたのか。
 - ・しかつと：しっかりと。しっかりと。
 - ・うみはまゆん：はげむ。熱心に努力する。
- *本文では、語句は活用されていますので、ここに示しました語句とは必ずしも一致しておりません。

事務局から

今回も楽しい話題を寄せていただき、ありがとうございました。

仲門勇市さんには、28年前の韓国滞在中に貴重な体験をされ、懐かしい思い出を書いていただきました。また、和田晶子さんには、沖縄旅行での数々の面白い体験談を書いていただきました。

会報12号では、添一分小を当てにしていたら、「みーふーふー」になってしまったお話でしたが、今回の旅では、タクシー代を430円も得しましたね。すばらしい旅でした。

今回は、喜多見で沖縄語を話す会会員の花田匠子さんが描いた絵を入れました。素敵なタッチで描かれたオンマーや、しーふーさーの絵を入れて、会報を一新しました。ご協力ありがとうございました。

この会報は、沖縄語にご関心があれば、会員以外の方でも投稿できます。

原稿は趣旨を変えないで、手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

國吉(眞)

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と [tu]	とーい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	と [hwe]	とー(南) にとーでーびる(有難うございます)
と [to]	とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ [he]	へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど [du]	どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や [?jal*]	やー(君、お前) やん(言わない)
ど [dol]	どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や ['jal]	やー(家) やん(である)
て [ti]	てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	ゆ [?jul*]	ゆん(言う)
て [te]	てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ ['jul]	ゆんたく(おしゃべり)
て [di]	ふて(筆) むてー(喉) てきやー(秀才)	よ [?jol*]	よーいー(おさな子)
で [de]	でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)	よ ['jol]	よーんなー(ゆっくり)
ふ [kwa]	ふじ(火事) ふっちー(ごちそう)	あ [?wa]*]	あー(豚) あーちち(天気)
か [ka]	かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ ['wa]	わーむん(私のもの)
ふ [gwa]	にんふん(念願) ふんく(頑固)	あ [?wi]*]	あー(上) あーりきさん(面白い)
が [ga]	がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	み ['wi]	みきが(男) みなぐ(女)
く [kwi]	くー(声) さっくー(咳) くゆん(呉れる)	系 [?we]*]	系ーきー(金持ち) 系んちゆ(ねずみ)
き [ki]	きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	系 ['we]	うい系ー(お祝) わじゃ系ー(災い)
ぐ [gwi]	ぐーく(越来「地名」)	ん [?N]*]	んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ)
ぎ [gi]	かーぎ(容ぼう)	ん ['N]	んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなと(港)
く [kwe]	くー(鋤) からじくー(髪きり虫)	い [?i]*]	いん(縁) いだ(枝)
け [ke]	けー(かゆ) ちけー(使者)	い [?i]	いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
ぐ [gwe]	ぐったい(ぬかるみ)	を ['u]*]	をと(夫) をーじ(さとうきび)
げ [ge]	げー(害) にげー(願い)	う [?u]	うと(音) うーび(帯)
ふ [hwa]	ふー(葉) なーふ(那覇)	え ['e]*]	えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は [ha]	はる(畑) はぎもー(荒地)	え [?e]	えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
ふ [hwi]	ふじゃい(左) ふーと(いるか)	お [?o]	おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ [hi]	ひやみかすん(えい、と言う)	を ['o]	をーじ(王子) をーれー(往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方 [?]は声門破裂音のあること、[']は声門破裂音のないことを示す。

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 とーい(鳥) ×とーい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)